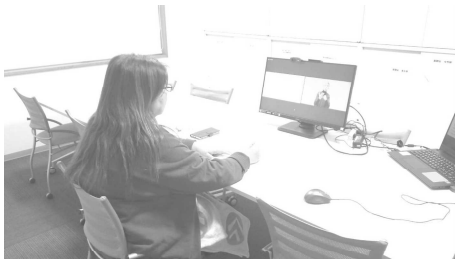
富山県聴覚障害者センターだより

●協会とセンターのホームページ
http://www.tomichokyo.or.jp
●手話通訳・要約筆記・ライブラリ・センター利用の「手引き」を配布しています。

デジタル社会に対応できる働き方は・・・

第31回全日本ろうあ連盟専従職員研修会の報告



12月17日(金)午後２時より、県聴覚障害者センターにて参加。例年であれば他県に出張しての研修となりますが、コロナ禍の影響でオンライン開催となりました。

今回は「デジタル社会における専従職員が求められるものは？」というテーマで、私は「デジタル」をZoomの設定やスマホの使い方、電話リレーサービスを想像していましたが、それは大きな間違いでした。

札幌聴覚障害者協会理事長の渋谷雄幸氏が講師となり、「人権・民主主義を守り育てる主体者の育成と多様な分野と連携」をポイントに、大変奥深いお話となりました。難しい話ではありましたが、その中で特に印象深く残った内容は、“「デジタル」化されたシステムを学び、私たちの人権を守るために使う”というものです。デジタル化されたことで良い面も悪い面もありますが、その情報をしっかりとつかみ、発信していく工夫、利用することは大変重要なのだと感じました。

後半では、２つのグループに分かれての討論会です。いくつかの協会から会議や行事はオンラインと対面のハイブリッド形式で行っているという報告がありましたが、大阪は、参加人数が多いこと、オンラインに対応できる人が少ないことなどで、対面重視で進めているため、日程調整が大変だったという話もありました。

また、どこも同じように課題と考えているのは、高齢者がデジタル化から取り残されているということでした。オンライン会議は無理、スマホも簡単なことだけ、電話リレーサービスは登録が難しいということで、そのサポートも専従職員の役割だと痛感しました。

最後に渋谷氏から、「今日、明日の成果を求めて活動をするのではない、連盟や国の未来のために活動しなければならない」という言葉に、今までは「富山県」という枠の中で考えていたことを、大きな視点で捉える必要があると思いました。

講演のなかで、54年前の日聴紙の記事が紹介されました。54年前には、「オンライン集金」「自動運転」「オンライン会議」などが夢物語のように書かれていましたが、今は実現しています。50年後…いや、25年後には、どんな社会になっているのか考えさせられる研修でした。このような研修の機会をいただき、ありがとうございました。（文責：宮﨑知子）

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

龍谷富山高校の生徒さんが来所　聴覚障害・手話等を学ぶ

12月15日（水）午前９時より龍谷富山高校の生徒さんが先生を含めて12名来所。まず、聞こえないとは何か、富山県聴覚障害者協会の活動、富山県手話言語条例の取り組みなどを施設長、職員による講義を行い、続いて手話の学習を行いました。菊池職員の熱心な手話指導で、生徒たちはあいさつ・自分の名前を手話で表現できるようになりました。午後のセンター見学では、スタジオ、大研修室、コミュニティサロン等を回り、施設長らが説明。最後にアイドラゴン４を使って「目で聴くテレビ」を視聴しました。

センター利用の実績　11月21日～12月20日

●来所者合計　約５０４名
　　聴障者約１９３名、健聴者約３１１名
●コミュニケーション支援　１１０件
●ライブラリー貸出１件２本　●相談対応４件
●部屋貸出　３５件

★センター運営募金・募集
郵便振替口座；
00790 － 0 － 93002
名称；富山県聴覚障害者センターを支える会
よろしくお願いします。